

特集 「2016 年度人工知能学会全国大会（第 30 回）」

公開イベント「コンピュータ囲碁はどこまで人間に迫れるか」

松原 仁（公立はこだて未来大学）

人工知能学会全国大会では 4 年前から人間とコンピュータ囲碁の公開対局を行っている。その目的は、

1. 人工知能のグランドチャレンジの一つとされるコンピュータ囲碁がどれくらい強くなったかを知ってもらう。
2. コンピュータ囲碁を通じて一般の方々に人工知能の現状を知ってもらう。

である。そのため、この公開対局は全国大会の参加者だけでなく、広く地元の方々（主に囲碁ファン）に無償で見せていただいている。今年 Google が開発した AlphaGo が韓国のトッププロ棋士のイ・セドルに勝ったことによってコンピュータ囲碁への関心がさらに高まっている状況での開催となった。

今回は人間としてプロ棋士の武宮陽光六段を日本棋院から紹介していただいた。コンピュータ側は昨年のコンピュータ囲碁イベントの実績から日本一と判断した Zen である。解説は日本棋院の武宮正樹九段（陽光六段の父親）をお願いした。司会進行は例年同様に伊藤毅志氏（電気通信大学）。聞き手は荒木伸夫氏（電気通信大学）をお願いした。地元の中村貞吾氏（九州工業大学）にサポートいただいた。

毎年ハンディについては悩ましい。今年の春にコンピュータの Zen が三子のハンディをもらって小林光一九段に勝ったことを受けて、二子のハンディ（黒半目コミ出し）で挑戦することにした。プロ棋士に二子のハンディでコンピュータ囲碁が対戦するのは国内では初めてのことだと思われる。

6 月 7 日に行われた武宮陽光六段と Zen の囲碁の対戦は Zen が 9 目半差で勝利した（以下に棋譜を示す）。

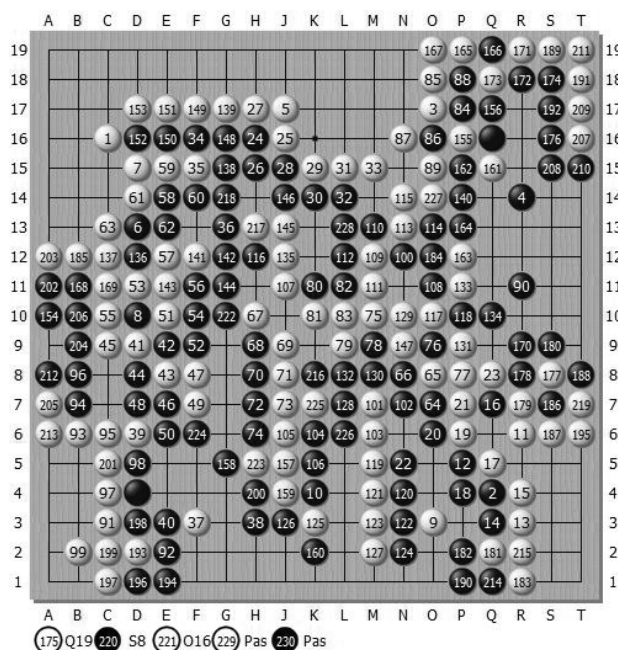


図 1 棋譜

大会参加者だけでなく、地元の多くの囲碁ファンに観戦していただいた。また、地元の新聞やテレビにも対戦が取り上げられた。AlphaGo だけでなく日本の Zen も強いことが人工知能関係者ならびに囲碁ファンにわかっていただけたものと思っている。結果として前記の目的を果たすことができたものと考えている。対戦していただいた武宮陽光六段、DeepZen の加藤英樹氏を始め協力していただいた方々に深く感謝する。